

令和7(2025)年度 下都賀地区特別支援教育研修会を開催しました

日時 令和7(2025)年7月24日(木) 13:30~16:00

会場 小山市桑市民交流センター「マルベリー館」(多目的ホール)

対象 下都賀地区小・中・義務教育学校教員

(希望者:特別支援教育担当教員や通常の学級の担任等)

1 研修の目的・内容

(1) 目的

通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対する理解と安心感を高める指導・支援に焦点を当て、事例等を通じた具体的な研修を行うことにより、通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒に対する個に応じた支援の充実に資する。

(2) 内容

ア 講話 「個に応じた指導」を考える～通常の学級における特別支援教育の推進～

下都賀教育事務所 庄司 秀樹 インクルーシブ教育エリアコーディネーター

イ 分科会 課題解決に向けての班別協議

2 本研修で確認したこと

(1) 特別支援教育の推進について

ア 栃木県の取組:栃木県教育振興基本計画 2025(特別支援教育の充実)

イ 下都賀地区の取組:下都賀地区学校教育の重点

「一人一人の教育的にニーズに応じた特別支援教育」

(2) 「個に応じた指導」を考える～通常の学級における特別支援教育の推進～

ア 演習

理科「元素の記号」の授業から

イ 先生方の実践の工夫

- ・ 分かりやすさ
- ・ 安心感
- ・ 自信を育てる
- ・ 学級全体の指導



ウ 集団指導と個別支援

- ・ 集団指導
- ・ 個別支援
- ・ 事例の紹介
- ・ 学業指導の視点



3 本研修会での学び（参加者が記入した「振り返り」から）

- ・ 「個に応じた指導」を考えるに当たって、学業指導の視点で今の授業を見直し、授業改善をしていくことが大切であることが分かりました。
- ・ 特別支援教育において配慮が必要な子どもへの個別対応だけに着眼するのではなく、集団作りのために個別理解が必要であることを強く感じた。特別な方法はなく、日常生活のなかで様々な実践を繰り返すことによって、子どもにとってのよりよい選択がとれるようになるということも学びになった。
- ・ 「個に応じた指導」ということで、講話や演習を通して一番考えたことは、集団指導と個別指導は別物ではなく、相互に作用しており、まずはしっかり集団指導していくことが大切であるということです。
- ・ 個別支援の前に、学級全体の指導をしっかりと行い、安心して過ごせる学級、互いを認め合える雰囲気のある学級づくりを行うことも大切であることを学びました。指導するに当たって、一番困っているのは子ども本人であること、また、教師一人で支援するのではなく、学級全体で支え合い、協力し合っていくことを意識していきたいと思います。
- ・ 模擬授業を通して一人一人の学習は異なるということを改めて実感しました。
- ・ 演習や講話を通して、学習の捉え方や適した学習方法は、子どもによって様々であることを改めて実感しました。
- ・ 生徒指導の基盤となるのは児童生徒一人一人についての児童生徒理解であり、どの児童生徒にとっても安心して学べる学級づくり、授業づくり、分かりやすい授業づくりをすすめることが重要だと再確認することができました。
- ・ この時間では何ができるようになればよいかを子どもと共有して、自分自身がどのように進歩したのかを振り返り等で気付くことのできるような問いかけをしていきたいと思いました。また場合によってはその目標を保護者とも共有して学校と家庭が連携して、その子に合った支援をしていきたいと思います。
- ・ 「集団の中には、困難を感じている子がいる」を常に心に置きながら集団指導と個別指導を状況に応じながらバランスよく行いたいと思った。
- ・ 全体の指導をしっかりと行うことで個に応じた指導も生きてくるのだと改めて感じました。学級全体の環境を整えることを意識していきたいと思いました。
- ・ 講話や先生方とのグループワークなどを通して、自身のクラスの子どもにはどのような手立てが考えられるかと改めて見つめ直す良い機会となりました。
- ・ 異なる学校の先生方と協議し合えたことは、知見が広がり、今後の支援に役立てようと思いました。
- ・ 自校の先生方とも共有し、少しでも難しさを感じている子どもたちが学びやすく、先生方の負担が軽くなるように努めたい。

